



# NPO法人ジャパンデンタルミッション

## 海外活動報告書

場所 ヴァヌアツ共和国タンナ島

期間 2017年7月8日～7月17日

参加メンバー

(左から) 伊藤玲 (歯科医師) 小西あゆみ (歯科衛生士) 平野文興 (歯科技工士) 関根 淳 (歯科医師)



### タンナ島

7月8日

成田空港に集合、大阪からの荷物が出発する飛行機会社と別のターミナルに届いていたが、早めに集合したためピックアップして問題なくターミナルに移動した。ニューカレドニアに時間通り到着し、1泊した。追加の荷物はエアカラン親会社のエールフランスから許可を得ていたためヴァヌアツまで追加料金なしで届いた。



9日

夕方の飛行機で予定通りバヌアツ入国、ポートビラ到着。保健省ローリー氏が我々を迎えてくれた。バヌアツ国内線の荷物代を無料にするためにバヌアツ航空のマネージャーにリクエストしていたがまだ返事がないとの事。

10日

タンナ島へ。結局国内線の荷物代は無料にならなかったが、カウンター担当者に我々の活動の熱意が伝わり、大幅に値下げしてもらえた。空港では時間通りラナケルホスピタルより迎えるトラックが来ていた。飛行機が遅れたため、昼頃到着した。一度宿泊するロッジに荷物を置き、昼食をとり、病院へ向かうと、以前一緒に活動した病院の看護師ティミー氏が迎えてくれた。

ラナケルハーバービュー小学校に立ち寄り今後の歯科検診と国際交流の予定を校長と相談し、とても歓迎された。校長より前回寄付された鉛筆はとても役に立って、余った鉛筆を他の小さな島の小学校と分けあってとても喜ばれたと感謝された。なお、校長は女性の校長に変わっていた。

病院ではいつも通り診療の準備をした。今回技工士が1名同行したため、病院の倉庫にて10年以上前の表記のあるJDMの箱をあけて、稼働するエンジンや咬合器の選別を行った。大部分の人工歯やレジンが劣化していた。



11日

朝、ラナケルハーバービュー小学校へ検診と国際文化交流へ。竹淵小学校からの折り紙を見て子供達はとても驚いていた。感謝の印として小学校の全員から国歌斉唱を頂いた。その後、食事と虫歯の関係を子供達に分かりやすく物語にした紙芝居を、今回初参加の技工士で、僧侶でもある平野氏から大変面白く朗読していただき、子供達も大受けしていた。翻訳はDr. 関根が担当した。歯磨きしないと何が起こるか理解してもらった後に、歯科検診を行った、全校生徒数は308人、若干休みがいた。歯科検診の後、折り紙の折り方を5年生にレクチャー。皆初めての折り紙に苦戦するも、最初から形にできる生徒が多かった。



午前中の残り時間は少なかったが診療を開始、たくさんのお患者さんが集まり、皆昼の時間が過ぎても働いた。デンチャー希望の患者も多く、平野氏と相談の上義歯の受付は本日のみとし、平野氏は残業して作業をした。

夜、宿舎に戻ると、偶然ロジでバヌアツ共和国の大臣一行のミーティングがあった。何の大臣か尋ねると、国土大臣だとの事。Ikitiという村に病院が出来たため、セレモニーで来たとの事。



12日

朝9時から診療開始。Dr. 関根は最初ラナケル小学校で別の学年に折り紙のレクチャーをしてから診療となった。抜歯、スケーリング、充填中心に昼過ぎまで診療した。11時ごろ病院管理者代理のティミー氏より、タンナ島に厚生大臣が明日チャーター便で来るため我々の病院に保管している機材と一緒に運んでくれることとなった、と報告あり、急いで荷物をまとめた。現在診療中のため診療機材は送れない。昼食後、患者が少し減ったがデンチャー希望の患者が多く、Dr. 伊藤とDr. 関根で可能な限り即時義歯を製作して対応した。明日のIkitiクリニックオープンのため病院のトラックは終日忙しく、午後5時を過ぎても活動していた我々の送迎が出来なくなったため、タンナ島で活動している京都大学防災研究所、気象・水象災害研究部門 耐風構造研究分野 特定研究院である中村逐彦氏が宿泊地まで送ってくれた。

13日

朝から診療。途切れることなく抜歯や充填が続いた。10時ごろ厚生労働大臣の視察があった。今回はオーストラリアの支援によるクリニックの開業セレモニー参加のためタンナ島に来ていたため、短い時間ではあったが、ラナケルホスピタルの歯科診療所を見学して頂き、これまでの活動に感謝の言葉を頂いた。本日も昼過ぎまで働き、先に帰国する Dr. 伊藤を見送った。



本日は午後も患者は途切れず、6時過ぎまで抜歯や充填、スケーリングを行った。本日も病院ドライバーの勤務時間を過ぎたため中村氏が宿舎まで送ってくれた。



14日

朝、ラナケル小学校から折り紙を受け取った。日本では見かけない折り紙もいくつか見受けられた。すぐに病院へ行き、診療を始めた。ドクター1人、衛生士1人名であったが可能な限り診療した。技工はすでにセットした患者の調整や研磨となった。お昼で診療を一旦終了とし、タンナ島在住の中村氏家族と昼食を共にした。その後、撤収作業を始めた。今回でJDMのタンナ島での活動は終了となるため、病院の倉庫で風雨に晒され、稼働しなくなったエンジンや、劣化した人工歯などは放棄した。以前JDMとロータリークラブで製作し、配り切れずに余っていたノートや下敷きが倉庫で痛んでいたが、部分的に綺麗なものもあったため、ラナケル小学校に寄付した。時間が少なかったが、これまでのJDMで使用した機材をまとめ、宿舎に戻った。



15日

朝、飛行場へ。タンナ島から撤収する荷物は多く、病院のトラックに乗せると我々が乗れなくなってしまうため、この日も中村氏家族が忙しい中飛行場まで送ってくれた。12日に大臣のチャーターフライトに乗せたはずの4つの箱のうち3つと、壊れたエンジンがタンナ島空港でストップしていた。ちょうどポートビラより帰って来たティミー氏と会えたため、ビラに送るよう説明。しかし、本日の荷物もオーバーウェイトのため来週になるとの事。ポートビラに戻り、JJ ローリー氏の出迎えがあった。

荷物の後日ピックアップをお願いした。個人の荷物1つと日本で修理予定のエンジン、技工機材のみ無理やり頼み込んで乗せてもらったためこれらの荷物は確保できたが、残りの荷物はタンナ島でストップしたままとなった。



午後、ポートビラ、セントラルホスピタルにJ A I C A 青年海外協力隊鈴木氏と訪問。Dr. Maine が待機してくれていた。DT. 平野氏は僧侶でもあり以前インドの寒村にて活動の傍ら、義歯製作のボランティアができないか模索していた。その活動が日本の新聞で紹介された際に、技工機材の寄付を受けたが、それらの機材がまだ残っており、バヌアツ共和国セントラルホスピタルにて生かす事ができないかミーティングを行った。セントラルホスピタルには技工士が一人いるが、休暇中のため後日バヌアツ訪問するか平野氏は検討中との事。

16日

今回メンバーが少なく、膨大な荷物整理や診療など、本日まで休む時間無く活動したが、帰りの飛行機まで時間があるため午前中はオフとなり、残ったメンバー3人でウミガメのいるビーチとメレフォールを散策した。



午後、タンナ島から後送りとなった荷物がちゃんと届いたか確認のため空港へ。バヌアツ共和国国内線では荷物が予定どおり届かない事が良くある。タンナ島在住の中村氏は島民からの信頼が厚く、飛行場の荷物がポートビラ空港にちゃんと届く様、空港で現地職員に頼んでくれた。そのおかげで来週届く予定の荷物まで含め、全ての荷物が届いたことを確認、保健省ローリー氏のトラックに積載してから帰国する事ができた。



# 2017年7月 バヌアツ・ペンテコスト島 視察報告

2017年7月6日(木)～14日(金)

2017年7月のバヌアツ共和国での歯科医療奉仕活動は、ペンテコスト島の調査と、タンナ島での診療でした。

前年度に現地保健省とのミーティング時にペンテコスト島での活動を依頼された為、7月6日～14日まで、私と生駒RCの古森さん、ポートビラのジャイカメンバーの鈴木麻代さん(歯科衛生士)保健省のラッセル(歯科医師)マクソン氏(現地コーディネーター)の5名で、ペンテコスト島まで調査に行きました。

ペンテコスト島には2つの飛行場がありますが、便は週に1便程度しか無く北部から調査をする為に、サント経由で行きましたが、サント島からペンテコスト島の便が急遽、前日に欠航が決まり、余儀なくチャーター便6人乗りのセスナ機でペンテコスト島に向かいました。

一方、タンナ島での歯科医療チームは8日～17日まで、関根先生(歯科医師)、伊藤先生(歯科医師)、平野さん(歯科技工士)、小西さん(歯科衛生士)の4名で活動しました。

以下はペンテコスト島視察チームの報告です。



古森淳一氏(左)と沢田宗久(右)

ポートビラ空港にて



7月6日(木)

先発隊の目的はペンテコスト島の調査で、古森氏と私の二人で関空を出発しました。

途中ニューカレドニア経由でヌメアに1泊しました。

7月7日(金)

夕刻バヌアツの首都ポートビラに到着しました。

## 7月8日(土)

朝、宿泊先のホテルにて保健省のメンバーとミーティングを行いました(レポート参照)  
MOH担当のJICAメンバー鈴木麻代様が同席し、現地語通訳して頂いたのが助かりました。



保健省とJDMのミーティング ポートビラにて

## 7月9日(日)

早朝、ペンテコスト行きのフライトが欠航となった為6人乗りのエアータクシーをチャーターして、無事ペンテコスト・サラ空港に到着。



途中、天候が良かったのでパイロットの計らいで、アンバエ島の上空を旋回して頂き、火山の火口のカルデラ湖を観ることが出来ました。

空港からトラックに乗り、ジャングルの様なデコボコ道路を通り、約1時間かけて Abwatuntora Health Center(アブワツントラヘルスセンター)に到着後、コミュニティーによる歓迎を受けセレモニーが開催されました。



病院内とゲストハウスを、ヘルスセンターの主要メンバー・コミュニティーチーフ・JDMでミーティングを行い、施設の確認と来年のJDMの活動について説明をしました。

関係者からは、是非このセンターで活動を行なって頂きたいとの強い要望がありました。

その後、次の訪問先の Melsisi Health Center(メルシーシ ヘルスセンター)に向けて出発。又ジャングルのような山道を3時間かけて午後4時過ぎに到着。ビラでのミーティングの説明では1時間くらいで行けると聞いていましたが、やはり現実は厳しくバヌアツタイムを実感しました。

7月10日(月)

午前中ペンテコスト島中央地区のコミュニティーの代表が出席の元、歓迎セレモニーが開催され、JDMの活動の目的と内容を説明しました。その後、ヘルスセンター責任者ローレンス氏のガイドで病院内を視察し、ローレンスとメルシーシ小学校(フレンチスクール)校長ニコラスとJDMでミーティングを行いました。



午後からパンギに向けて出発途中、地元のフレンチ系の小学校とイングリッシュ系小学校を訪問しました。



途中に滝やキャプテンクックがバナアツを発見した時、海岸壁の岩に刻んだ文字を観ながら約4時間かけてバンギに夕方5時頃、到着しました。

今後の活動の共通理解とメルシーシに拠点を置いた場合の施設の利用場所について確認を行いました。その後、持参した歯ブラシ500本をメルシーシスクールに寄贈し、八尾市立竹淵小学校との文化交流の話もしました。



パンギに行く途中の滝  
現地歯科医師 ラッセル  
JICA衛生士 鈴木麻代  
コーディネータ マクソン  
古森氏と沢田

7月11日(火曜日)

午前中、ヘルスセンターのナース・スクールコミュニティメンバーが歓迎セレモニーを開催し

てランチも準備されパンギコミュニティーの歓迎ムードを感じられました。



その後、学校とヘルスセンターを視察し、来年パンギに拠点を置いた場合の施設の利用場所などについて確認を行いました。地区教育長より、生徒やペンテコストの歯科事情について説明を受けました。

空港からの交通事情、ロケーションを考慮した結果、2018年のJDMの活動拠点をパンギに置く事を仮決定致しました。



7月12日(水曜日)

出発前にもう一度パンギの施設を視察し、地区教育長とコミュニティー代表同席の元で、会議を行いました。



コミュニティーは2017年12月末までにJDM受け入れの為にゲストハウスを完成させる。JDMIはそれを確認後、正式に活動拠点をバヌアツ・ペンテコスト島・パンギに決定し、保健省へ最終決定を報告します。

その後、歯科用ポータブルチェアや寄付物資・歯科診療材料などをコンテナでパンギに船便で送付することを会議で決定致しました。

パンギからロノロレ空港に向かう途中、フレンチ系現地小学校を訪問し、校長先生に来年7月には歯科健診を行う予定であることを伝えました。学校の裏側を見ると、バンジージャンプのやぐらがそびえ立っていました。バンジージャンプは毎年5月・6月に行われる成人式で今回は見る事ができませんでした。



👉バンジージャンプのやぐらを背景に

その後空港に到着、飛行機が定刻より3時間遅れでしたが、無事に首都のポートビラに帰ることができました。

7月14日(金曜日)

無事成田に帰国致しました



7月13日(木曜日)

午前中に保健省担当のローリー氏に会ってペンテコスト島の3か所アブワツトラ・メルシーシ・パンギを視察した結果を報告しました。

初めローリーは、メルシーシを希望していましたが、この三か所の中ではメルシーシの病院の設備が一番整っていて良かったけれど、空港からのアクセスが3時間かかるので、まずは、ペンテコストでの活動第一段階はJDMのメンバーが行きやすい空港から1時間で行けるパンギに決めて、徐々に北の方へ移動することが、望ましいと説明しました。

ローリーもそれについて納得し、了承して頂くことができましたので、来年からパンギで活動を行うこととなりました。



保健省のローリーと最後のミーティング

午後の便でニューカレドニアに向かいました。

## 総評(2017、ペンテコスト・タンナ島)

代表理事 沢田 宗久

前年度に現地保健省とのミーティング時にペンテコスト島での活動を依頼されました。タンナ島よりもペンテコスト島の方が医療面で乏しい環境にあり、歯科医師が居ないのが現状であります。JDMとしては、タンナ島とペンテコスト島の両立はできません。タンナ島には、ティミーと言うセラピストが常駐し、この数年間、彼と私達と一緒に活動したことで、歯科予防のノウハウは彼に任せられると確信しました。

今年のペンテコスト島での調査は、北部のアブワツントラ・ヘルスセンター、中部のメルシーシーヘルスセンター、南部のパンギヘルスセンターの3か所を調査に行きました。

メルシーシーの病院の設備が一番整って良かったのですが、空港からのアクセスが車で3時間かかるので、まずはペンテコストでの第一段階としてJDMのメンバーが動きやすい空港から1時間で行けるパンギに決定し、徐々に北へ活動を移動することが望ましいと考えました。

保健省のローリーと、話し合った結果、来年からパンギで活動することに決めました。

又、タンナ島での活動は今回の参加メンバーが関根先生・伊藤先生・平野歯科技工士・小西歯科衛生士の4名で少なかったにもかかわらず、歯科治療・デンチャー作成・学校健診・八尾市立竹淵小学校とハーバービュー小学校との折り紙による文化交流などを行いました。今回でタンナ島での活動は最後ですので、膨大な機材の在庫整理をしました。

現地の皆様の協力のおかげで、全ての機材の撤収ができ、無事にポートビラまで持って帰ることができました。

今年度で、16年間となるタンナ島での歯科医療ボランティア活動を全て引き上げて終止符を打ちました。

来年度から又、新たにペンテコスト島へと移動します。JDMの活動はどんな土地に行っても不変です。JDMのメンバーは、自分の持てる力の限り困っている人々に手を差し伸べて一人一人が人間形成の場として、活動して行きます。

これからも、温かいご支援宜しくお願い致します。

2017年7月11～14日タンナ・ラナケルHP 診療内容

2017年7月	7月11日	7月12日	7月13日	7月14日	合計
抜歯	14	18	21	5	58
CR充填	1	3	8	5	17
スケーリング	3	8	7	2	20
チェックアップ	1	2	2	1	6
義歯 印象	4				4
義歯増歯	1				1
義歯 バイト		2			2
義歯 セット		1	4		4
口内炎粘膜治療			1		1
ブラッシング指導			1		1
投薬			1		1
義歯 調整				2	2
患者数	18人	21人	32人	11人	82人

7月11日ラナケル・ハーバービュー小学校歯科健診

280人健診する

小学生	241
先生	4
キンダークラス	35
合計	280